

{ 学芸員のある1日 }

[大阪歴史博物館] 学芸員 谷口正樹さん

好きな武将は毛利元就です!

小学生の頃に戦国武将ゲームにハマり、歴史に興味を持つ。学芸員の仕事の傍ら、大阪市立大学大学院後期博士課程に在籍。戦国時代の都市を専門に研究。



博物館のウラ側! 「展示替え」に密着

着任後すぐに重要文化財のお披露目展示を担当

2020年4月に大阪歴史博物館の学芸員となった谷口正樹さん。着任早々、特別公開「国指定重要文化財 久米田寺文書の世界」(7/22~8/24)の展示を担当することになりました。「岸和田市の久米田寺には中世の貴重な歴史的な文書が数多く残っています。そのうち足

利尊氏書状ほかがこの度、重要文化財の指定を受けたため、当館でお披露目展示をすることになったんです。戦国時代研究の大先輩であり、上司でもある大澤研一館長の指導を受けつつ、展示品の選定からPR用コピーの考案、展示レイアウトと奔走し、7月ようやく展示を開始。8月初頭から徐々に来館者数も増えはじめました。「日々、増加する来館者数を見て、博物館が世に必要とされていると実感し、感動しま

した」と谷口さん。さらに今後は、来館者とのコミュニケーションをもっと増やしたいのだとか。「学芸員は、研究者と一般の歴史ファンとの繋ぎ役。より深い知識へのニーズが高まっているので、最新のアカデミックな情報をみなさんにわかりやすくお伝えするのも我々の大切な仕事」と語ります。開かれた「学びの空間」としてのミュージアムへ…未来への夢は、まだ始まったばかりです。



4:00 A.M.

展示会場をチェック

チェックシートを元に展示物がズレたりしていないか、照明がきちんと当たっているかなどを確認して状態を記入。開館日には1日2回、開館前と閉館後に行っています。



文書を保護する汗止めタオルは必須アイテム!

11:00 A.M.



収蔵庫で展示品を念入りに検品

休館日に展示ケースの古文書を入れ替えるために、館蔵品を収蔵庫から取り出してチェック。(左)センサー付きの重厚な鉄の扉を開けて収蔵庫に。(右)戦で焼失した四天王寺を復興させるため、豊臣秀吉は境内で資金集めの能イベント「勳進能」(かんじんのかみ)を開催。その際に暴れたり、もめ事を起こさないように、という禁止行為を伝える「小出秀政禁制」(こいでひでまさきんぜい)の掛け軸。

16世紀ごろ、浄土真宗の布教に使われたテキスト「御文」(おふみ)。お寺の行事ごとの書類を入れる箱に入っていました。



2:00 P.M.

展示ケース・オープン! 展示替え作業開始

(上) ガラス用吸盤を取り付け、展示ケースをオープン。中に入れて展示品を入れ替える作業を行います。(下)台の上のレイアウトも展示には大切な要素。大澤館長が見守る中、左右の幅が均等になっているかなど定規で計って確認。

コレクション・ギャラリー #03

2021年度開館! 大阪中之島美術館の名作

「ミス・ブランチ」^{くまはらしろう} 倉俣史朗

デザイン/1988年 製作/1989年
アクリル・造花・アルミパイプ 87.5×62.0×60.0cm

家具・インテリアデザイナーとして、またクリエイターとして国内外で活躍し、その斬新で繊細な家具はしばしば美術作品と評された倉俣史朗。造花の赤いバラをアクリルに閉じ込めたこの椅子は、「浮遊」をテーマとした彼の晩年の代表作といえるものです。ちなみに、ミス・ブランチという作品名は映画「欲望という名の電車」のヒロインであるブランチ・デュボワへのオマージュです。



OSAKA
MUSEUMS

78114

秋はミュージアムで
植物鑑賞

植物の癒しと
チカラを感じて

TAKE FREE
大阪市内
6ミュージアム
+1スポットのトピックス

2020
9月-11月

文化庁

令和2年度 文化庁
地域と共働した博物館創造活動支援事業



あざやかな色に パワーをもらう

ミュージアムで“植物”とふれあう

たとえ自然から遠く離れた街で暮らしていても、身近な観葉植物やミニ菜園に心やすらぐ時間があります。同じようにミュージアムにも、私たちの心に響き、癒しやチカラを与えてくれる作品や展示がたくさんあります。アート、ヒストリー、サイエンス…この秋は、いろいろなジャンルの「植物鑑賞」を楽しんでみませんか？

大阪中之島美術館 2021年度開館予定

【白孔雀】石崎光瑠 1922年 絹本着色 六曲一双 各高178.5×幅372.0cm (写真は右隻)

大きく羽を広げた白孔雀の周囲に目をやると、緑を基調とした背景に青紫色の花(アヤメ科のイチハツ/鳶尾花)が咲いています。作者の石崎光瑠は、作画のモチーフを得るためにインドを訪れ、原色鮮やかな熱帯地方の花や鳥に魅了されました。画面の左側に佇む孔雀の丸みを帯びたフォルムや、意匠的なチナール(スズカケノキ)の葉には、アール・ヌーヴォーの影響が色濃く表れています。異国情緒あふれる題材を用いて、モダンな表現を追求した、高雅で流麗な作品です。



詳細は大阪中之島美術館所蔵作品紹介サイト参照



重要文化財

心癒される静寂の碧

重要文化財

大阪市立東洋陶磁美術館

【緑釉黒花牡丹文瓶】

金時代/12世紀 高35.0cm
住友グループ寄贈(安宅コレクション)

緑色の背景に黒い牡丹の花というコントラストが、アンティークな雰囲気の中にも現代的で洗練された魅力を演出します。中国磁州窯の名作として世界的に知られるもので、細やかな花の描写、ダイナミックな構図が、植物の生命力を感じさせます。写真/六田知弘

展示期間: いずれも展示中~11/8、11/21~のコレクション展で展示予定です。

【青磁象嵌

童子宝相華唐草文 水注】

高麗時代/12~13世紀 高19.2cm
住友グループ寄贈(安宅コレクション)

ぼつたり丸いフォルムが愛らしい高麗時代の水注は、花と蔓草の文様を象嵌*という技法で施した手の込んだ作品です。中央には子孫繁栄の象徴・子どもが蔓で遊んでいるかわいらしい姿も見られます。注目は柄の部分で、太い蔓や蓮の葉を立体的に表現している。個性が、目にも優しい青磁ならではの色合いにほっと癒される作品です。写真/六田知弘

*文様を彫ったり、スタンプで押し込んだ後、素地とは異なる色の土を埋込み、釉薬を施し焼き上げる技法のこと。



柄の付け根は立体的な蓮の葉のデザインに。



大阪歴史博物館

【難波宮跡出土 蓮華文軒丸瓦】

奈良時代/8世紀 直径15.8cm

後期難波宮の創建よりやや新しい時期の軒丸瓦。宮殿の破損した屋根瓦を補修するために用いたと考えられています。

【難波宮跡出土 蓮華文軒丸瓦

唐草文軒平瓦】 奈良時代/8世紀

軒丸瓦 直径15.4cm、軒平瓦 高11.8×幅26.0cm

聖武天皇により744年、恭仁京から難波に遷都が行われ、約90年ぶりに、大阪の地が都になりました。右の繊細で整った文様の瓦丸・軒平瓦は、天皇の住まいである内裏の一部で用いられたとみられる格式の高いもの。現在の吹田市にあった七尾瓦窯で焼かれ、難波まで運ばれたことがわかっています。仏の悟りを象徴する美しい蓮華文は、仏教の影響の大きさを感じさせます。

いずれも10F常設展示で展示中



大阪市文化財協会

【豊臣時代の金箔瓦】

豊臣期/16世紀末~17世紀初 一辺18.0cm

大阪城の南東・現在の森ノ宮ピロティホールあたりに発見された豊臣時代の金箔瓦。派手好きの秀吉は本丸をはじめ周辺の重要施設に多数の金箔瓦を施したほか、側近の家臣のみ金箔瓦の使用を許可。金箔瓦を用いた建物は大阪城にある施設や屋敷の中でもハイクラスなものだったとされています。菊の花に金箔が貼られた瓦で飾られた建物は当時の街並みの中で、ひとときまばゆく輝いていたことでしょう。

常時見学可能 ※要予約(連絡先P.7参照)

※学芸員の目 / 大阪市立自然史博物館学芸員が作品や展示の植物を解説!

「白孔雀」に描かれているスズカケノキは、作者が訪れたカシミール~ヒマラヤ一帯の水辺に巨木が点在しています。青い花=イチハツはこの地域では園芸栽培品のため、作品の風景は大自然の中ではなく、観光地的な場所かもしれません。また「童子宝相華唐草文 水注」の取手の付け根にある木の葉は、縮れ方が蓮というよりウリの仲間に近い印象。キュウリ、スイカなどのツル植物を参考にした可能性もありますね。そして瓦や仏具の華やかな「蓮華」(ハス)モチーフ。この名前を聞いてレンゲソウを思い出すかもしれませんが、実はレンゲソウは本来、ゲンゲ(魁揺)という名前。輪になって咲く花をハスになぞらえてレンゲソウと呼ぶようになったのだそうです。



歴史と文化を語る 植物の意匠



大阪市立美術館

【金銅蓮華形磬】鎌倉時代/14世紀

幅14.7cm

磬は、寺院で用いられる楽器=梵音具のひとつ。中央に撞座があり、ここを槌で叩くとカ〜と高く澄んだ音が響きます。通常は両端の穴に紐を通して磬架という木枠に吊し、読経の合間に打ち鳴らして使用されます。鎌倉時代の制作と考えられるこの黄金色の磬は、仏教と縁の深い蓮の花をデザイン化したもので、花托が撞座になっています。

展示期間: 10/27~12/13



人の暮らしと
自然の共存



大阪市立自然史博物館

【台場くぬぎ】 高さ3m50cm(展示部分のみ)

館内1階の「花と緑と自然の情報センター」の山地ゾーンに足を踏み入れると、そこで出迎えてくれるのはまるで彫刻のように迫力ある巨木。この【台場くぬぎ】、実は茶人の千利休とも深い関係があるのです。展示されている木は、北摂・高台寺山の森にあった倒木を所有者のご厚意でいただいたもの。樹齢はおよそ270年。ゴツゴツとした太い幹は、人の手で枝を刈り取ってはまた生えて〜を何年も繰り返した結果、このような形に。上質な炭の原料として重宝されるくぬぎ。特に北摂一帯には古くから高度な製炭技術がありました。千利休がこの地域の炭をいたく気に入り推奨したことから「池田炭」、「菊炭」の名でブランド化され、広く知られることになりました。台場くぬぎはこうした人々の営みを伝える歴史の証人なのです。

【台場くぬぎ】は長い歴史の中で人々の暮らしを支え、共存してきた里山の自然のシンボル。人だけでなく昆虫や動物の住処でもある里山の自然をいかに守るか？ それは私たち自身の課題だと言えるでしょう。



A 幅6.5×奥行12.5cm

B 幅3.6×奥行5.0cm

C 幅9.0×奥行13.5cm

オブジェのような化石

A【ナラのなかま】

B【トサミズキのなかま】

C【シナノキのなかま】

A・B:3500万年前 C:1000年前~400万年前

阪神間の山間の地層から出土した葉っぱの化石。今も日本に存在するナラ、トサミズキ、シナノキなどの化石たちは、日本の里山の雑木林の自然が太古の昔に形作られていたことを物語っています。淡いページと茶のグラデーション、葉脈の繊細なラインが、まるでオブジェのように美しく、眺めていて飽きさせません。

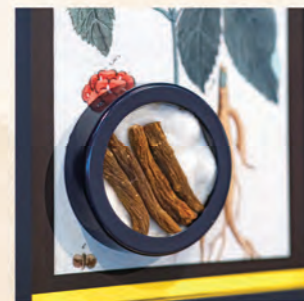
本館 常設展・第2展示室で展示中

大阪市立科学館

【生薬ウォール】

遠い昔の先人達は、病気やケガをしたときに植物の力を借りて治療を始め、やがてそれが生薬として利用されてきました。大阪市立科学館では、そうした植物が持つ化学成分に注目して「生薬ウォール」を展示場3階に展開。56の生薬について、実物と美しい絵で、迫力たっぷりの生薬図鑑のように展示しています。生薬そのものはもちろん、ボタニカルアートとしても必見です。現在も植物から薬を作るという研究は続いていて、隣の「身近な合成医薬品」の展示には、中華料理にも用いられるハッカク(スターアニス)が展示されています。これに含まれるシキミ酸という成分は、インフルエンザの治療薬・タミフルの原料として用いられているのです。

展示場3階で展示中



カプセルに入った生薬と、そのもとになる植物の絵をセットで展示。写真は、抵抗力を高めてくれるといわれる生薬「コウジン」。

サイエンスな
ボタニカルアート

学芸員の目 / 大阪市立自然史博物館学芸員が作品や展示の植物を解説!

スターアニスは別名「トウシキミ」。その名の通り中国南部原産の日本の「シキミ」と近縁な植物です。果実の形もそっくりですが、よく注意してください。シキミは間違えて食べて死亡事故が何度も起きている猛毒を含む植物です。シキミは仏事でよく使う植物です。毒を含むことは昔から知られており、それ故に魔を寄せ付けぬ儀礼の植物として使われたのでしょうか。植物の中には人間をはじめ、他の生物に作用する様々な化学物質が潜んでいます。その秘密を慎重に吟味し、人間は薬を発達させてきたわけです。きっとこれからも、使い方を工夫することで、毒も薬に使えるかもしれません。植物の側は人間の都合など知らず、ただそれぞれに身を守り、生き抜く工夫をしているだけです。我々が植物の都合をしっかりと見つめていくことも、植物の恵み(生物多様性)を生かしていくための遠回りのような近道だと思います。



SNSで楽しむ おうちでミュージアム

おうちに居ながら楽しめる各館のおすすめコンテンツをご紹介します。



大阪歴史博物館

@naniwarekihaku

展示の見所から日々の学びまで、幅広く発信

展示品紹介のみならず、社会や暮らしに寄り添う投稿が多数。ほぼ毎日アップされる「きょうは何の日?」企画も好評。



大阪国立自然史博物館

大阪国立自然史博物館

学芸員解説や子どもワークショップなど
学びを動画で

イラストを交えて分かりやすく解説する「子どもワークショップ」やライブ感あふれる学芸員によるギャラリートークなど、見応えのある企画コンテンツ満載。



http://www.nak-osaka.jp/

大阪中之島美術館

HP Artrip Museum

バーチャルで楽しむ
ミュージアム

収蔵品から厳選した44点の絵画や立体作品を、拡大画像や解説とともに鑑賞できる「コレクションギャラリー」や、読み応えのある「開館準備ニュース」などコンテンツが充実。



大阪市立科学館

@gakugei_osm

多彩&マニアックな
投稿は必見!

10万回以上再生された人気投稿「紫キャベツの料理実験」をはじめ夜空の観測など、11人の学芸員+館長の個性あふれる投稿は必見。

大阪市立東洋陶磁美術館

@moco_press

一歩踏み込んだ、作品の魅力

展覧会情報をメインに発信する一方で、作品一つ一つにフォーカスした解説文や美しいビジュアルが目を引く。



大阪市立美術館

@ocmfa_since1936

美術作品への想いに触れて

コレクション展などの情報を発信。作品の背景や込められた想いを知るきっかけに。

大阪市文化財協会

@occpa

最新の発掘調査状況や
出土品を紹介

大阪での発掘調査の近況、発掘で得た成果、出土品などについて発信。イベントの告知も。



気の向くままに、ミュージアム散策を楽しもう!

OSAKA MUSEUMS

M = Osaka Metro ★ = OSAKA MUSEUMS 周辺イベント情報



※記載内容は9月4日時点の情報です。今後の状況で、開館時間等が変更になる場合がございます。※各館において、安全面の観点から、入場の制限や一部のイベント等の見合わせを行っております。詳細については、各館HPをご確認ください。



OSAKA MUSEUMS vol.15 2020年12月発行予定

「OSAKA MUSEUMS」では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を発信しています。



「OSAKA MUSEUMS」vol.14 2020年9月20日発行
発行/地方独立行政法人 大阪博物館機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
TEL 06-6940-4330(代表)
制作/丸山印刷株式会社

「OSAKA MUSEUMS」主な設置場所 ▶大阪市内の各種情報センター、交通施設、文教施設、観光事業者、ホテル、複合商業施設、区役所ほか